

目的

県内ではヤマメ（川で一生を過ごすもの）やサクラマス（海へ降り大型になって川に戻ってきたもの）釣りが盛んであるが、詳細な利用実態や繁殖状況は明らかになっていない。そこで、今後の持続的利用に向けた取組に役立てるべく、釣果情報を収集し、県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲実態を調査した。また、那珂川における主産卵場である木ノ俣川における産卵床調査を実施した。

方法

**釣果情報** 昨年と同様に2021年シーズン中（3月1日から9月19日）における那珂川及び鬼怒川のヤマメ・サクラマスの釣果情報を収集した。<sup>1)</sup>

**産卵床調査** 9月21日から11月9日にかけて那珂川（木ノ俣川及び油井上下流）を踏査し、産卵床の数、産卵床にいる親魚の尾数や大きさ及びヤマメとサクラマスの違いを観察した。観察方法は既報に従った。<sup>1)</sup>

結果および考察

**那珂川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数**  
2021年は10名の釣り人から21尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが52.4%（11尾）、サクラマスが47.6%（10尾）であった（図1）。また、全長31cm以上のサクラマスは4個体釣獲され、最大釣獲個体の全長は40cmであった。

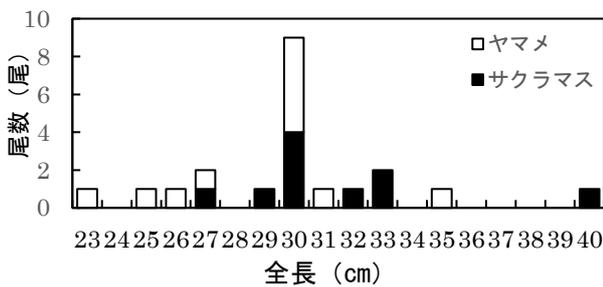


図1 那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲尾数

**那珂川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期**  
那珂川のヤマメ・サクラマスは3月上旬から9月中旬まで釣獲され、ヤマメでは6月、サクラマスでは4月の釣果報告が最も多かった（図2）。

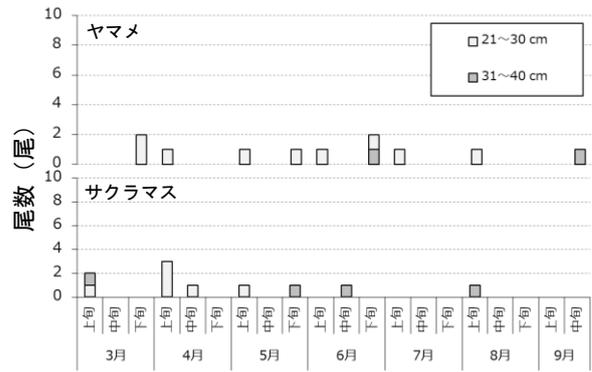


図2 鬼怒川におけるヤマメとサクラマスの釣獲尾数

2021年は24名の釣り人から57尾の釣果情報の投稿があった。外部形態の特徴から回遊型を判別した結果、ヤマメが70.2%（40尾）、サクラマスが29.8%（17尾）であった（図3）。また、全長31cm以上のサクラマス12個体釣獲され、最大釣獲個体の全長は45cmであった。

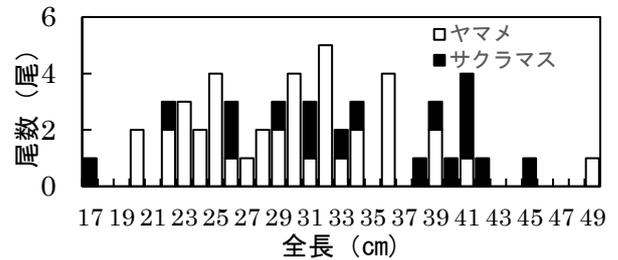


図3 鬼怒川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲尾数

**鬼怒川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲時期**  
鬼怒川のヤマメ・サクラマスは3月上旬から8月下旬まで釣獲され、ヤマメでは3月、サクラマスでは4月の釣果報告が最も多かった（図4）。

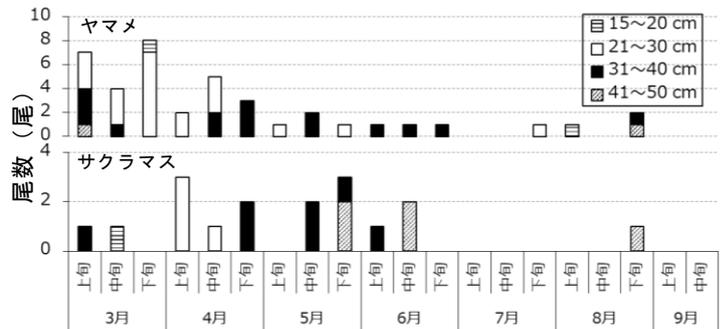


図4 鬼怒川におけるヤマメ・サクラマス釣獲時期

**那珂川における産卵床調査** 那珂川におけるサクラマスの主産卵場である那珂川（木ノ俣川及び油井上下流）において、サクラマス親魚がいる産卵床は木ノ俣川で2か所確認できた。サクラマスの産卵場調査は平成28（2016）年から継続して調査を行っているが、産卵床数は年々減少傾向にある（図5）。特に2019年は台風19号による増水の影響が大きかったと考えられる。2021年は大きな出水はなく、観察されたサクラマスも2個体であったことから、産卵床数に比例するとされている資源量は、今後も大きく減少する可能性が考えられる。

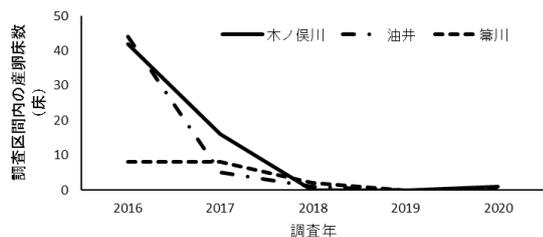


図5 那珂川におけるサクラマスの産卵床数推移

#### 引用文献

- 1) 小原明香・小堀功男. 県内主要河川におけるヤマメ・サクラマスの釣獲状況（令和2年度）. 栃木県水産試験場研究報告. 2021；65：40-41.  
(指導環境室)